



新潟県

教育月報 2月号

第769号
平成26年 2月 1日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

<今月号の記事>

- 1 : 教育ニュースライン ----- P 1
- 2 : 本県における生徒指導上の諸問題について ----- P 2 ~ 5
- 3 : 魅力ある高校づくりプロジェクトについて ----- P 6 ~ 7
- 4 : 「新潟県高校生 理数トップセミナー」について ----- P 8 ~ 10
- 5 : 平成25年度新規講座、研修・講座等の実施状況と成果について -- P 11 ~ 12
- 6 : コーチングスキルを生かして家庭教育支援者のパワーアップを図る P 13
- 7 : 県立図書館の学校支援～貸出サービスの紹介～ ----- P 14

教育ニュースライン

県教育に関わる最新ニュースをお知らせします。

「個を伸ばす教育」への理解増加

本県では基礎的知識や能力の習得を基本としながら、児童生徒一人一人を尊重して、個性を伸ばしていく「個を伸ばす教育」を推進しています。

この度、今年度の県民意識調査の結果がまとまりました。調査は郵送で約1,000名の県民の皆様からの回答結果をまとめたものです。

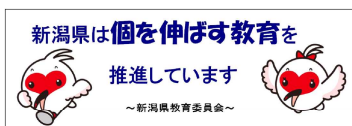
教育に関連しては、「「個」を伸ばす教育が行われていると感じる」という項目があり、以下のとおり、毎回改善しています。県教育委員会では、「個を伸ばす教育」推進に向けて進めているオンリーワンスクールの実施や、わかる授業づくり等、教育環境の整備について一定の評価をいただいた結果と受け止めています。

今後も、県民の皆様から「個を伸ばす教育」への理解をさらにいただけるよう、わかる授業づくりや特色ある学校づくり等の教育環境の整備に努めていきます。

表 個を伸ばす教育が行われていると感じる者の割合

調査年度	H22	H23	H24	H25
割合	13.4%	14.6%	20.0%	22.2%

個を伸ばす教育 Webページ <http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoikusomu/1294866079721.html>



お仕事パネル展を開催しました

新潟日报社と県教育委員会が共同企画した「週刊ふむふむ×新潟県 お仕事を学ぶパネル展」を1月18日から2月4日まで、新潟市中央区の新潟日報メディアシップ20階「そらの広場」で開催しました。新潟日報週刊ふむふむからは「お仕事ファイル」の記事をとおして、イルカトレーナーといった職業の内容やその職に就く方法などを解説し、県教委は「夢サポート」と題して小中高校などと進めるキャリア教育についての取組を紹介しました。

五輪本県代表10選手に(1/22現在)

2月7日からロシアで開催されるソチ冬季オリンピックの日本代表として本県から以下の10選手が選ばれました。今回選ばれた選手の中には県の施策である「新潟から世界へ夢プロジェクト事業」の対象選手も含まれています。すべての選手の活躍を期待します。

本県関係のソチ五輪代表（敬称略）

ジャンプ男子	清水礼留飛
距離男子	恩田 祐一
	宮沢 大志
スキー女子モーグル	星野 純子
スキー女子ハーフパイプ	小野塚彩那
スノーボード男子ハーフパイプ	平野 歩夢
スノーボード女子クロス	藤森 由香
バイアスロン男子	井佐 英徳
バイアスロン女子	小林 美貴
	中島 由貴

本県における生徒指導上の諸問題について

義務教育課

はじめに

文部科学省は12月に、平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(以下、問題行動調査という)の結果を公表しました。

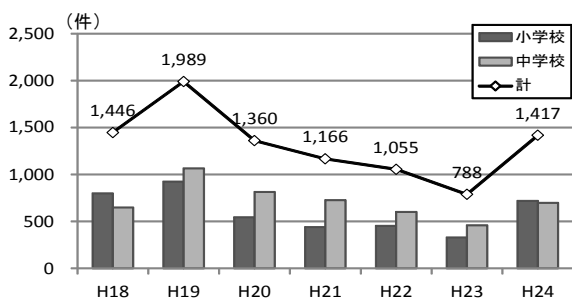
本号では、この調査の結果から、本県の公立小・中学校(中等教育学校を含む)における生徒指導上の諸問題の現状と課題、対応や未然防止に向けた取組について説明します。

平成24年度のいじめの現状と課題

1 小・中学校ともに認知件数が大幅に増加

いじめの認知件数は、平成19年度をピークとして減少傾向にありましたが、平成24年度は、公立の小学校で719件、中学校で698件、合計1,417件となり、平成23年度(788件)の約1.8倍にまで増加しました。(図1)

図1 いじめの認知件数の推移(公立小・中学校)



平成24年度は全国的にも増加傾向にあり、文部科学省が各都道府県にアンケートを実施したところ、「学校・教員の積極的ないじめの認知が進んだ」「児童生徒・保護者の意識が高まった」等の回答が寄せられたとのこと。

いじめを深刻化させないためには、早期に発見し、適切に対応することが大切です。県教育委員会では、学校に対してアンケート調査や教育相談を確実に実施して、いじめの積極的な認知に努めるよう指導してきました。児童生徒の些細なトラブルも見逃さないよう求めてきたことなどが、認知件数の増加につながったものととらえています。

2 いじめに対する意識の高まり

平成24年度は、他県で発生した中学生の自殺は、いじめが原因との報道が連日行われ、いじめの問題が社会的に注目を浴びました。

以来、いじめに対する児童生徒・保護者の意識や教職員の危機意識が高まり、教職員はいじめの積極的な認知に努めてきました。

今回の調査におけるいじめ発見のきっかけは、小学校においては、保護者からの訴えが最も多く(34.8%)、続いて学校の教職員(32.8%)、児童本人からの訴え(18.6%)となっています。中学校では、学校の教職員による発見が最も多く(37.8%)、続いて生徒本人からの訴え(36.5%)、保護者からの訴え(16.0%)となっています。

3 いじめを受けた児童生徒の相談状況

いじめを受けた児童生徒の相談先で、全体に占める割合が最も多かったのは、学級担任(小49.1%、中45.6%)であり、続いて家族や保護者(小31.9%、中21.4%)でした。小・中学校ともに、最も多い相談先が学級担任であったことは、学級担任と児童生徒との信頼関係の面からも好ましい結果といえます。

課題としては、小・中学校ともに、誰にも相談しなかった事例が4%程度あることです。誰にも相談できないほど深刻ないじめが行われていたり、自尊心や羞恥心から相談できない場合もあるので、周囲の大人が声をかけるなどして気付くことが、重大な事態に発展させない方法として大切です。

定期的なアンケート調査に加え、日常的な観察や教育相談をきめ細かく行うなど、常に緊張感を持って対応していくことが重要です。

いじめ問題への対応のポイント

1 基本方針に沿った組織的対応

昨年の6月に公布された「いじめ防止対策



推進法」には、学校がいじめの防止等（いじめの防止、早期発見、対処）のための対策に関して基本的な方針を定めるよう義務付けられています。また、学校がいじめの防止等に関する措置を実効的に行うために、委員会を設置するなど組織的に対応することも求められています。

教職員が本人や保護者からいじめの相談を受けたり、いじめの兆候に気付いたりした際には、一人で抱え込むことなく、学校全体の問題として対応することが大切です。

2 いじめの早期発見・即時対応に努める

いじめは人権に関わる問題であり、命にも関わる重大な問題です。いじめは、どの学校でも、どの子どもにも起こりうる問題であると同時に、発見することによって初めて対処が可能となる問題でもあります。

したがって、いじめの認知を不名誉なことととらえるのではなく、いじめを見逃すことこそが、問題を深刻化・複雑化させ、解消を遅らせる原因となることをしっかりと認識する必要があります。すべての学校において、このことを教職員が十分に認識するとともに、家庭や地域にも周知を図り、協力を得ながら早期発見・即時対応に努めることが必要です。

3 いじめの未然防止に努める

いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題では、その背景に児童生徒の社会性が不足していることが指摘されています。

県教育委員会では、学校・家庭・地域が連携しながら子どもたちの社会性を育成するため、「いじめ見逃しゼロスクール」の推進をすべての学校にお願いしてきました。

「いじめ見逃しゼロスクール集会」の開催や「いじめ見逃しゼロ強調月間」、「子どもと共ワンツースリーに1・2・3運動」等の取組を柱に、いじめ等の未然防止に取り組むことが大切です。

4 いじめを受けた児童生徒に寄り添う

個々の行為がいじめに当たるか否かの判断は、客観的な事実関係を把握した上で、いじ

めを受けた児童生徒の立場に立つて行うことが必要です。また、いじめをした側の児童生徒や保護者と、いじめを受けた児童生徒や保護者の双方に対して、学校が把握した事実関係や指導方針等をきちんと説明することが大切です。

5 謝罪＝解消と考えない

いじめの解消に向けては、謝罪を急ぐあまり、形だけの仲直りとしめない配慮が必要です。いじめをした側の児童生徒が自分の心に向き合い、きちんと反省することができるよう、根気強い指導が求められます。

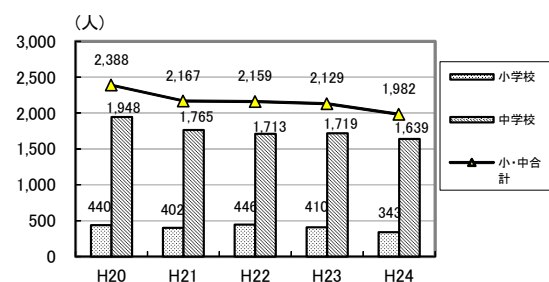
なお、教職員が解消と判断した後であっても再び当該児童生徒間にいじめが起こることは十分に考えられます。また、いじめた児童生徒が、他の児童生徒に対して同様のいじめを行うことも想定されます。注意深く観察を継続するとともに、双方の児童生徒が、よりよい方向に向かうような支援が大切です。

平成24年度の不登校の現状と課題

1 不登校児童生徒数は減少

本県の公立小・中学校における不登校児童生徒数は、平成21年度から減少傾向が続き、平成24年度も1,982人（前年度比－147人）と、大きく減少しました（図2）。

図2 本県の不登校児童生徒数の推移



これは、「中1ギャップ解消プログラム」の自校プランを各学校で着実に実践していることや、欠席の初期に組織的に対応する「子どもと共ワンツースリーに1・2・3運動」が定着してきたこと等により、一定の成果があったものと受け止めています。

しかし、小・中学校合わせて2,000人近い不

登校児童生徒が依然として存在することは、憂慮すべき状況といえます。

2 学年別不登校児童生徒数と中1ギャップ

不登校児童生徒数は減少したものの、中学校1年生で前年（小学校6年生時）より不登校生徒数が急増する「中1ギャップ」の状況は、3.02倍（平成23年度は2.41倍）と高い数値を示しています。

また、中1以外の学年でも、小2、小3、中2でそれぞれ1.4倍以上の児童生徒が不登校になっています（表1）。

表1 学年別不登校児童生徒数(人)

県	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
H23	14	24	54	69	121	128	420	616	683
H24	4	20	35	68	89	127	387	589	663
属人比	-	1.43	1.46	1.26	1.29	1.05	3.02	1.40	1.08

※ 属人比の計算例：H23年度の6年生128人 → H24年度の中学1年生387人（ $387 \div 128 = 3.02$ 倍）

児童生徒が教職員の指導の進め方や新しい人間関係等にギャップを感じることは、中学1年生だけでなくどの学年間においても起こりうることであります。欠席状況を詳細に把握し、新学年への引継ぎや、小学校から中学校への情報提供を丁寧に行い、早期発見・即時対応に努めてください。

新たな不登校を生まないために

1 校内不登校対策委員会の定期開催を

平成24年度の問題行動調査において、「平成25年度に不登校対策委員会を設置する」と回答した学校は100%になりました（表2）。

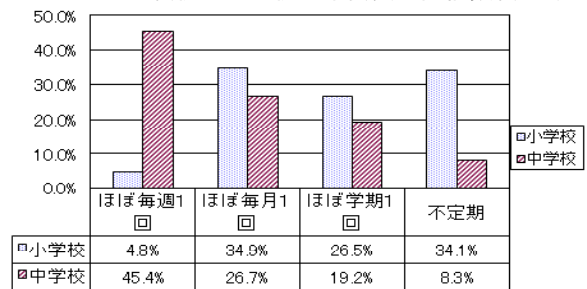
表2 不登校対策委員会設置率の推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校	74.2%	99.4%	100%
中学校	95.7%	100%	100%

※ 設置率 = (その年度の設置予定数/全学校数) × 100

しかし、小・中学校別に見ると、中学校では週に1回の開催が多いですが、小学校では月に1回や学期に1回の開催が多く、開催頻度には差があることがわかります。（図3）

図3 平成25年度校内不登校対策委員会開催頻度(予定)



新たな不登校を生まないためには、定期的に不登校対策委員会を開催して情報の共有に努め、不登校の予兆を把握したら即時にチーム体制で支援できるよう、校内体制を整備しておくことが重要です。

2 「子どもと共に1・2・3運動」の徹底を

県教育委員会では、欠席の初期対応について、全職員で共通理解し、全校体制で取り組むよう呼びかけています。これは当たり前のことのように思いますが、欠席の初期対応が遅れると、児童生徒や家庭との信頼関係を損ねたり、問題が複雑化・深刻化し、対応が困難になったりすることがあります。

ワン・ツー・スリー

<子どもと共に1・2・3運動>

1日目：欠席家庭に連絡し保護者又は本人から状況を聞く。

2日目：児童生徒の具体的な状況を電話等により把握する。

3日目：家庭訪問を実施して、保護者又は本人と面談する。

3 年間欠席が10日以上の子児童生徒に注目して予防的な支援を

平成24年度の30日以上欠席の不登校児童生徒数は減少しましたが、年間10日以上30日未満の欠席児童生徒数は、小・中学校合わせて865人で、前年度より増加しています（表3）。

表3 年間10日以上30日未満の欠席児童生徒数

	年間10日以上30日未満の欠席児童生徒数	全不登校児童生徒数 (年間30日以上欠席)
小学校	350 (190)	343 (410)
中学校	515 (492)	1,639 (1,719)
合計	865 (682)	1,982 (2,129)

※ () 内は平成23年度の数値



前年度までにいずれかの学年で年間10日以上
の欠席がみられた児童生徒が、その後いず
れかの学年で30日以上の不登校になるケ
ースがあります。

特に小学校時に年間10日以上
の欠席があった児童に関する中学校への引
継ぎについては、小学校6年時の状況だけ
でなく、全学年における欠席の理由や対
応の詳細について、きめ細かに情報を収
集し、予防的な支援に努めていただくよ
うお願いします。

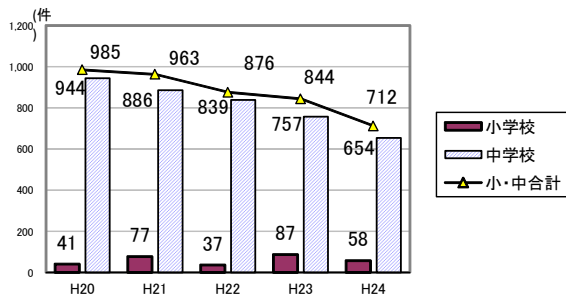
平成24年度の暴力行為の現状と課題

1 暴力行為の発生件数は減少

本県の公立小・中学校における暴力行為
発生件数は、平成21年度から減少傾向が
続き、平成24年度も712件（前年度比
-132件）と、大きく減少しました（図4）。

これは、全校体制と連携が強化され、「合
意形成と情報共有」や「役割連携と相互補
完」等の工夫や、組織的な取組が定着して
きたこと等により、一定の成果があったも
のと受け止めています。

図4 本県の暴力行為発生件数の推移



しかし、小学校では加害児童が増加する
など暴力行為の低年齢化が危惧されます。
中学校では受診や被害届の提出を伴う重
度の暴力行為が発生し、加害生徒に対
する警察等への措置数が増加している状
況にあります。

2 暴力行為や非行等への適切な対応

非行や暴力行為の起こらない明るい学
校づくりのためには、保護者・地域と連
携し、あらゆる教育活動の中で児童生
徒の社会性を育てる取組を推進するこ
とが大切です。特に、「関

わり合って学ぶ授業づくり」と、「計画的・
継続的な人間関係づくり」の2つを重点
として、未然防止の取組を進めてくだ
さい。

また、児童生徒の生命または身体の安
全が脅かされているような重大事案に
関しては、学校だけで問題を抱え込む
ことなく、警察等の関係機関との連
携を深めて適確な対応を図る必要があ
ります。

さらに、学校だけで対応することが難
しい事例に対しては、市町村教育委員
会との連携のもとで、地域の人材や外
部専門家、スクールソーシャルワーカー
やカウンセラーを積極的に活用してく
ださい。また、広域化・多様化する携
帯電話やインターネット等を介した問
題行動の未然防止のために、情報モラ
ル教育と保護者への啓発を推進するよ
うお願いします。

おわりに

昨年の6月28日に「いじめ防止対策
推進法」が公布され、9月28日から施
行されています。学校には、学校いじ
め防止基本方針の策定やいじめの防止
等の対策のための組織を置いて対応す
ることが義務付けられています。文部
科学省では、平成25年度「児童生徒
の問題行動等生徒指導上の諸問題に関
する調査」において、学校における基
本方針の策定状況や組織の設置状況
について調査を行うとしています。各
学校では、法律に規定されている内
容を確実に実施しなければなりません。

県では、「新潟県いじめ防止基本方針」
の策定や、いじめ問題の対策に向けた
関係機関の連絡協議会及び重大事態
が発生した場合の調査組織の設置に向
けて、関係各課で調整を図っている
ところです。

各学校においても、「学校いじめ防止
基本方針」の策定やいじめの防止等
のための組織を設置することにより、
いじめをはじめとする生徒指導上の
諸問題の解消に向けて、組織的に
対応するようお願いします。

魅力ある高校づくりプロジェクトについて

高等学校教育課

はじめに

県教育委員会では、生徒一人一人の個性と能力の伸長を図る「個を伸ばす教育」を推進しており、その実現のため、教育環境の整備、特色ある学校づくりに取り組んでいます。

高等学校教育課では、平成22年度から、夢や希望をもって全国から生徒が集まってくるような「魅力ある高校づくりプロジェクト」に取り組んでいます。

本号では、そのねらいや具体的な取組と成果について紹介します。

「魅力ある高校づくりプロジェクト」

高等学校教育課では、平成22年度から全国における特色ある学科等の調査・研究を始め、地域や生徒、保護者のニーズを踏まえながら、平成24年度に、新津工業高校と新潟中央高校で新たな学科等を設置し、平成25年4月に、新たなコースを国際情報高校に設置しました。

具体的な取組とこれまでの成果

1 新津工業高等学校日本建築科

平成24年4月設置の「日本建築科」は、全国でも珍しい（全国で3番目）伝統工法に関する学科です。

現在1年生と2年生が「にいがたの名工」認定者などの優れた熟練大工から直接指導を受け、匠の技と心を学んでいます。

日頃の練習成果が発揮され、全国大会の第8回若年者ものづくり競技大会建築大工部門わくいまことでは、日本建築科2年生の涌井誠さんが、準優勝に輝きました。また、その他の生徒も、木材加工等の部門の全国大会で入賞したり、県大会で優勝するなど優秀な成績を収めています。

さらに、11月15日には薬師寺金堂の再建などに携わった宮大工棟梁小川三夫氏より、特別実習と特別講演会を実施していただきまし

た。講演会には、県内外から多くの方々が参加され、小川さんからは、「技術の習得には素直な心と熱意が大事である」とのお話がありました。特別指導を受けた生徒は、「将来、ものづくりの現場で、指導していただいたことを活かしたい」と将来への決意を新たにしていました。



【11月の小川三夫棟梁による特別実習の様子】

今後は、建築業界との連携により、将来の匠を目指す人材の育成に向けて、教育内容の充実を図り、新潟から日本を代表する建築大工が誕生することを願っています。

2 新潟中央高等学校音楽科ロシアンメソッド・ピアノ専攻

平成24年度設置の「ロシアンメソッド・ピアノ専攻」では、1、2年生合わせて19名の生徒が、音楽の世界で活躍するプロフェッショナルを目指して、モスクワ音楽院の講師から直接指導を受けています。

5月26日、新潟市の「りゅーとぴあ」において、「第5回ロシアンメソッド公開ピアノレッスン&コンサート」を開催し、およそ700名の来場がありました。今回の講師であるピアニストは、モスクワ音楽院講師のヴァチエスラフ・グリャズノフ先生です。コンサートでは、ショパンやバッハの楽曲を、繊細かつダイナミックに演奏され、観客はそのすばらしさに陶醉していました。また、公開レッスンでは、先生の的確な指導により、生徒の演奏が驚くほど情緒豊かに変化していく様子が見られ、指導を受け入れる生徒の技術力の



高さも目を見張るものがありました。



【5月の公開レッスンの様子】

また、これまでに、ロシアンメソッド・ピアノ専攻の2年生、三宅月海^{みやげつきみ}さんが、新潟県音楽コンクールで最優秀賞を受賞するなどの成果を収めています。

さらに、12月のモスクワ音楽院等での研修に、希望者9名が参加しました。今後も、教育内容の充実を図りながら、世界で活躍する音楽家を目指す生徒を支援してまいります。

3 国際情報高等学校海外大学進学コース

平成25年4月設置の「海外大学進学コース」は、国際社会で活躍するリーダーを志す人材の育成を図るコースです。

このコースでは、実践的レベルでの英語力を養成するほか、学校設定科目「グローバルスタディーズ」で、コミュニケーション力、論理的思考力、プレゼンテーション力や課題解決力の育成を図ります。また、世界の様々な分野で活躍する方々による講演会や研修会などを実施し、グローバルな視点からのキャリア教育を推進します。

このほか、10月に海外大学進学コースを希望する1年生12名によるボストン研修を実施しました。



【10月のボストン研修の様子】



【10月のボストン研修の様子】

ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学等の大学視察や海外の学生との交流などの研修に参加した生徒の感想をいくつか紹介します。

- 大学で学ぶことについての見方や考え方が大きく変わった。
- 研修で学んだことを活かして、これからの夢に向かって頑張りたい。
- 日本人学生の「将来、自分がどんな人になりたいのか、それまでのプロセスを考えれば、そのために何をすればいいのかが分かってくる」という言葉が印象に残った。

なお、海外大学進学コースは、今年度からの設置ですが、これまでも、海外の大学へ合格した実績があります。合格した主な大学は次のとおりです。

- ・ アメリカ創価大学
- ・ コロラド大学ボルダー校
- ・ マイアミ大学オハイオ校
- ・ オレゴン大学

今後も、教育活動全体をとおして、海外大学への進学に対応できる学力や能力を育成し、将来グローバルリーダーを目指す生徒の支援をしてまいります。

おわりに

今後も、子どもたちが夢や希望をもって進路選択ができるよう「魅力ある高校づくりプロジェクト」に取り組むとともに、生徒一人一人の個性や能力の伸長を図る「個を伸ばす教育」を推進します。

「新潟県高校生 理数トップセミナー」について

高等学校教育課

はじめに

新潟県教育委員会では、新潟大学理学部の協力を得て、数学や理科に関する体験的・問題解決的な学習活動を行うことをとおして、本県高校生の数学や理科への興味・関心と、知的探究心を育成することを目的として、「新潟県高校生理数トップセミナー」を開催しています。

これまでの経緯

当セミナーは、平成20年度から22年度までは「数学トップセミナー」として実施してきましたが、平成23年度から、分野を理科の各分野にまで拡大し、「理数トップセミナー」として開催しています。

新潟大学理学部の教授等が作成した数学や理科の課題を、大学教授や大学院生等から指導を受けながらグループで研究し、その成果について発表及び意見交換することが、主な内容です。

今年度は、昨年度より開催日を1日長くして、物理と化学の実験競技を取り入れました。この実験競技の問題は、本県の高校の教員が何度か集まって研修会を開き、作成したオリジナルの問題です。全チームが参加して競えるような内容を考えました。

セミナーは、平成25年11月9日(土)～10日(日)及び12月7日(土)の3日間、新潟大学理学部を会場として実施しました。今年度は高校生、中等教育学校生137人が参加しました。

グループ研究の課題テーマと内容

1 数学①

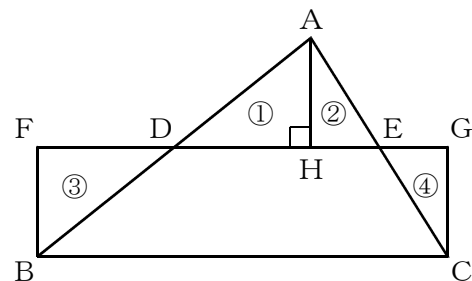
(1) 課題テーマ

「分解合同」

(2) 内容

3辺の長さがそれぞれ等しい三角形は同じ形をしていることは学校で勉強したと思います。数学ではAとBが等しい時、 $A=B$ と書

いたりします。しかし、「等しい」とか「同じ」とは何か、その本質は何か、と考えるとこれは難しい本質的な問いかけであることに気が付くでしょう。たとえば、整数全体は有理数全体の一部でしかないのに、その個数は同じです。また、下の図において、 $\triangle ABC$ の①と②の部分を取り取って、それぞれ③と④の位置に貼ると、長方形BCGFができます。このようなとき、 $\triangle ABC$ と長方形BCGFは分解合同であるといえます。



本テーマではある視点に立って「同じもの」についての研究をします。数学の本質はその自由性にあると看破したカントールに敬意を表して自由な発想で研究します。

2 数学②

(1) 課題テーマ

「ある条件下での面積最大の図形」

(2) 内容

周の長さが与えられた平面図形の中で最大の面積をもつものを求めよ。答えは円です。これは等周問題と呼ばれ、すでに多くの証明法が知られています。この問題に関連して、ある条件下での等周問題を考えてみます。

ところで、曲線の長さはどう決めますか？
囲まれた図形の面積は？

3 物理

(1) 課題テーマ

「低温の世界とヘリウム超流動実験」

(2) 内容

物質の性質を調べるためには、低温環境や



磁場環境を実現することが必要です。本課題では低温技術の基礎と液体窒素を使った実験を行います。さらに低温を実現するために必要な液体ヘリウムの取り扱いや冷凍機の仕組みを学び、最後に液体ヘリウムの超流動実験を行います。この現象について理解するために必要な量子力学に基づいた素材提供も行います。

4 化学

(1) 課題テーマ

「陽イオンの定性分析・滴定による定量分析」

(2) 内容

未知物質の濃度や種類を調べる実験を行います。中和滴定は、濃度の分からない2種類の物質の濃度を一度の滴定操作で調べる実験、無機定性分析は、何種類かの陽イオンを含む未知試料を手順にしたがって操作し、どのようなイオンが含まれているかを調べる実験です。

5 生物

(1) 課題テーマ

「メダカの体色制御の仕組みを考える」

(2) 内容

動物の体色は、敵から身を隠す、異性に対して魅力的に見せる、自分の状態（成熟しているとか、興奮しているとか）を仲間に知らせるなど、いろいろな意味を持っており、動物は様々な方法で自分の体色を制御しています。ここでは、メダカの体色変化を調べて、それがどのような仕組みで調節されているかを考えます。

「科学の甲子園」について

当セミナーは「科学の甲子園新潟県予選」を兼ねるため、グループで挑戦する数学や理科等の「筆記競技」、同じくグループで挑戦する物理と化学の「実験競技」をセミナー中に実施しています。「筆記競技」及び「実験競技」の成績と、「グループ研究」の受賞を総合的に判断して、「科学の甲子園新潟県代表校」を選

出しました。

「科学の甲子園」全国大会は、各都道府県の予選を勝ち抜いた高等学校等の代表チームが、理科・数学・情報における複数分野の競技で科学の知識やその活用力を競い合う大会です。平成26年3月21日～24日に兵庫県で開催される第3回全国大会には、国際情報高校が県代表校として出場することが決まりました。



【閉会式で講師へのお礼】



【県代表生徒】

今年度の参加校

4人1組のグループで参加することを原則としており、今年度の参加校は下の表のとおりです。

グループ研究では、数学20チーム、物理3チーム、化学5チーム、生物6チームに分かれ、7人の大学教授等の指導を受けながら、研究に取り組みました。セミナーの期間中は、23人のT A（ティーチング・アシスタント）の大学生・大学院生からも、サポートを受けました。

学校名	参加人数
新潟高等学校	8
新潟南高等学校	8
新発田高等学校	8
長岡高等学校	8
国際情報高等学校	19
柏崎高等学校	4
高田高等学校	16
村上中等教育学校	23
柏崎翔洋中等教育学校	15
新潟明訓高等学校	12
新潟清心女子高等学校	16
合計	137

【今年度の理数トップセミナー参加校】

取組の様子

グループ研究と実験競技の取組の様子を、写真で紹介いたします。

〈数学〉



【グループでの探究活動】



【発表と質疑応答】

〈物理〉



【液体ヘリウムの実験】



【グループでのまとめ】

〈化学〉



【グループでの実験】

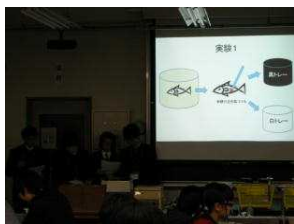


【発表の準備】

〈生物〉



【メダカの鱗の観察】



【成果発表会】

〈実験競技〉



【物理（パイプ振り子）】



【化学（果物電池）】

終わりに

普段、高等学校等ではできないような、実験や探究的な活動を楽しんで、積極的に取り組んでもらえたことは、たいへん有意義でした。グループ研究の他に、競技形式の「物理実験競技」「化学実験競技」でも、活気に満ちたグループ活動がみられました。今後も科学好きの生徒の裾野を広げる取組を、継続していくことが大切だと考えています。また、全国規模の大会でも活躍できるような実力をつけられるように、生徒を育成していくことも今後の課題です。

インフォメーション

● 県立万代島美術館

「梅佳代展 UMEKAYO」

○会期 3月15日（土）～5月6日（火）※予定

○観覧料 一般 800円（600円）

大学・高校生 600円（400円）

中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金

県立万代島美術館

住所 新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル5階

TEL 025-290-6655

HP <http://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

● 県立文書館

文書館歴史講座「ふるさと発見、ムラの神様で掘り起こす地域の歴史」

○日時 3月8日（土）13:30～15:00

○会場 新潟県立文書館 ホール

○定員 180名（参加無料）

○申込み 電話・FAX・Eメールのいずれかで県立文書館までお申込みください。

県立文書館

住所 新潟市中央区女池3-1-2

TEL 025-284-6011 FAX 025-284-8737

E-mail archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp

HP <http://www.archives.pref.niigata.jp/>

● 県立近代美術館

企画展「生誕120年 岩田正巳展 —新興大和絵、その清澄なる世界—」

○会期 3月1日（土）～4月13日（日）※予定

○観覧料 一般 1,000円（800円）

大学・高校生 800円（600円）

中学生以下無料

※（ ）内は前売・有料20名以上の団体料金

県立近代美術館

住所 長岡市千秋3丁目278-14 TEL 0258-28-4111

HP <http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/>

★上記ほか、県立施設のイベントについて、より詳細な情報は15ページに掲載しています。



平成25年度新規講座、研修・講座等の実施状況と成果について 県立教育センター

はじめに

県立教育センターでは、教育課題解決に向けた学校のニーズに対応した様々な研修を実施しています。本年度、「新任主幹教諭研修」「ICT活用の推進を図る講座」の2つの新規研修・講座を開講しました。

本号では、それぞれの研修・講座の目的、実施状況及び成果について紹介しますので、各学校においては、今後の取組の参考にしてください。

平成25年度新規講座について

1 小・中・特別支援学校新任主幹教諭研修

(1) 目的

主幹教諭としての職務、今日的課題、組織マネジメントの考え方等について総合的に理解を深め、主幹教諭としての資質能力の向上を図る。

(2) 概要

〔対象者〕 小・中・特別支援学校新任主幹教諭

〔定員〕 29人

〔期日〕 5月22日（水）

〔研修内容〕

- 講義「学校組織マネジメントと教員評価」
講師：新潟大学大学院 雲尾周 准教授



【雲尾准教授の講義風景】

- 講義「教頭・主幹教諭の実務
～危機管理と教育関係法規～」
講師：義務教育課 管理主事

- 講義「人権教育、同和教育」
講師：義務教育課 指導主事
- 演習・協議「主幹教諭の役割とその課題」
指導者：県立教育センター 指導主事



【演習・協議風景】

(3) 研修の成果と課題

研修直後のアンケートでは、研修全般に対する満足度は、「満足」90%、「やや満足」10%と、全員から満足をいただきました。また、講義に対する評価は、平均が4段階中3.9、演習・協議に対する評価は平均3.7と満足度が高く、内容においても有益な研修と言えます。

研修3か月後のアンケートでは、89%の受講者が校務分掌・業務に「研修で得たことを活用した」と答え、「今後活用する予定」も含めると、全員が研修を活用している様子が伺えます。また、「研修後においても効果を実感している」と答えた受講者は90%おり、実務の面からも有益な研修と考えます。

今後は、学校ごとに異なる主幹教諭の役割や課題について、演習で深めることができるよう、内容の改善を図っていきます。

〔受講者の感想〕

校務を進めるにあたり、マネジメントの視点を大切にしていきたいと研修を通じて考えることができました。

「問題解決とは目標と現状の差を解消すること」ということが分かり、今の自分が何をなすべきかのヒントになりました。現状をしっかりと見据え、校長、教頭を助けて行きたいと思えます。

2 ICT活用の推進を図る講座

(1) 目的

ICTの活用方法等に係る情報を共有することで、ICT活用を推進し、教育技術の一層の向上を図る。

(2) 概要

〔対象者〕小・中・高・特別支援学校教諭

〔定員〕20人

〔期日〕11月29日（金）

〔研修内容〕

○ 講義「教育におけるICT活用の現状と課題」

講師：富山大学 高橋純 准教授

ICT活用の全国的な動向や授業で活用するねらいと具体的な活用例についての講義をとおして、ICTを活用した今後の学習の可能性を考えました。

○ 実践発表「ICT機器を活用した授業実践」

発表者：関川小学校 宮下絹恵 教諭

ICT機器を活用した関川小学校の実践として、電子黒板や教育支援ソフト「サイバー先生」の利用例やテレビ電話を活用した事例が紹介されました。具体的な発表をとおして、受講者はICT活用が学力や意欲の向上に有効であることが理解できました。



【宮下教諭の実践発表】

○ 演習「ICTの活用について」

グループに分かれ、次の3つの内容について演習を行いました。

① 実物投影機及びテレビ会議システムの活用について

手軽に利用できる実物投影機や遠隔地でも授業が受けられるテレビ会議システムの活用方法について協議しました。

② 電子黒板の活用体験

デジタル教科書や電子黒板の有効性について実際に体験し、授業での活用法を考えました。

③ タブレット端末を活用した授業の体験

講師：ダイワボウ情報システム㈱ 様

受講者がタブレット端末を活用した授業を体験し、使用法を理解するとともに活用法を検討することができました。



【タブレット端末の演習】

○ 協議

ICTを活用した教育の可能性やねらいなどについて、校種に分かれ協議しました。

(3) 成果と課題

研修後のアンケートでは受講者全員が「満足」「やや満足」と答え、喫緊の教育課題解決に向けた研修というねらいは十分に果たせたものと考えます。一方で、定員を上回る申込があり、希望に応えきれなかった点が課題です。来年度、定員の拡大を図ります。

〔受講者の感想〕

講義では、普及している機器の活用事例やポイントがわかりやすくまとめられており、実際に活用できると感じました。

研修をとおして更にICTを活用していきたいという思いが強くなりました。

おわりに

県立教育センターでは、本号で紹介した以外にも、授業力・指導力の向上に向け、様々な研修・講座を開講しています。

また、教育課題の解決や活力ある教育活動の展開に向け、各種調査・研究、相談支援等様々な事業にも取り組んでいます。

本県教育のよりよい展開に向け、研修・研究・支援を3本の柱として、全力で教育現場の皆様を支援したいと考えておりますので、県立教育センターの各事業を、ぜひ御活用ください。

県立教育センターのスローガン
教師の学びを 子どもの未来へ



コーチングスキルを生かして家庭教育支援者のパワーアップを図る

県立生涯学習推進センター

はじめに

10月22日(火)23日(水)の2日間にわたって、NPOチャイルドラインにいがた代表の小林富貴子先生を講師にお迎えして、家庭教育支援者ステップアップ研修会を開催しました。小林先生は、巧みに演習と講義を組み合わせ、コーチングスキルの理解と家庭教育支援の現場にその手法を生かす実践事例について、共感的理解の場を提供してくださいました。

2日間で延べ75名の参加者がありました。

研修の概要

1 心理的支援と共感

1日目は「家庭教育支援者の役割とできること」をテーマに「心理的支援の実際と共感する技術」を中心に講義と演習が行われました。

はじめに、年代による価値観の違いについて演習を行いました。その演習で年代による価値観を実感した後で、心理的支援のためには年代別の心理的ギャップがあることを理解することの大切さを説明されました。

更に支援するには、共感することが重要であるが、共感は「気持ち理解できる」ということであり、必ずしも賛成することではないことを力説されました。別な考えを伝えるには、否定ではなく「私は～」で代替案を出す方法が効果的であるとも話されました。

2 効果的なチームビルディング

2日目は「地域のつながりを大切にするために」をテーマに「脳の働きとコーチングスキル」を理解し「効果的なチームビルディング」を実践するための手立てなどについての講義と演習が行われました。

イメージトレーニングの演習後、心と脳の密接な働きについて触れ、子どもをどう育てたいかをイメージすることがその後の接し方にとっても重要であることを説明されました。

それは、みんなで一緒に活動するときに、リーダーがビジョンを明確にもち、具体的なミッションを共有することにつながるという話もありました。

日頃から支援者として、子どもや保護者に対してだけでなく、チーム全員で共有して心がけることをまとめていただきました。

①興味関心のあることと結びつけて伝える。

②聞く耳をもち、相手に多く話をさせる。

③達成できる小さな目標を一緒に決める。

【講義中の小林富貴子先生】



【受講者のアンケートから】

- ・世代別の思考のギャップに納得。世代により説明の仕方も異なることがわかった。
 - ・演習を通して、共感したことで伝わるものがあって共感の大切さを実感した。
 - ・子どもと話すときの心掛けや、どう導いていったらいいかを学ぶことができた。
 - ・言葉が相手に与える影響の大きさを感じた。
 - ・すぐに生かせる内容の研修でよかった。
 - ・演習と講義がリンクして理解が深まった。
- ※もっと詳しくコーチングについて学びたいという声も多くありました。

おわりに

コーチングは「対話」を大事にして相手の自己実現や目標達成をねらう技法です。演習を交えた講義が進む中、「相手のことを考えた対話」がコーチングのベースだと思いました。

多くの演習で受講者の皆さんが、相手に真剣に向き合って対話をされている様子を見て、改めて支援者としての対話の大切さを感じた研修会でした。

県立図書館の学校支援～貸出サービスの紹介～

県立図書館

はじめに

県立図書館では、窓口での調査相談、貸出、複写などのサービス以外にも、学校に対する各種支援事業に取り組んでいます。今回は、主に貸出サービスについて御紹介します。

貸出サービスの概要

1 セット図書貸出

当館では、県内の小規模自治体※の図書館及び公民館図書室に対して、セット図書（1セット100冊）の長期一括貸出を行っています。貸し出した図書は、当該図書館等の判断で更に学校等へ貸し出すことも可能です。

セット内容は、「児童書調べものセット」「朝読セット」等全13セットあります。詳細は当館ホームページ (<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/toshokanpage/shokibo/>) を御覧ください。どれも新しく購入した本ばかりです。詳しくは当館へお気軽にお問い合わせください。

※小規模自治体とは人口6万人未満の自治体です。

2 外国絵本コレクション展示セット貸出

当館では、「オズボーンコレクション」（イギリスの絵本）と、「ベルリンコレクション」（ドイツ、フランス等の絵本）の展示セットを学校へ貸し出しています。

(1) 学校での活用方法

いずれのセットも作品解説、展示用パネルなどを併せて貸し出します。御利用いただいた学校からは「本のほかに掲示物もセットになっており、すぐに展示ができて便利」と好評をいただいております。

(2) お申込方法

専用の申込書がありますので、まずはお問い合わせください。利用は無料ですが、往復の送料のみ御負担いただきます。利用期間は

30日間です。（送付にかかる期間を含みます。）



【展示会場となった学校図書室の様子】

3 一般図書の貸出

当館では、学校への一般図書の貸出も行っています。1機関につき50冊まで30日間借りられます。授業等の参考資料として、御利用ください。なお、図書の中には、貸出できないものや貸出期間が短くなるものもあります。また、往復の送料は負担していただきます。

申込方法など詳しくは、当館へお問い合わせください。

訪問相談

平成25年度下半期から、県立高校図書館に対する訪問相談を始め、16校から相談希望が寄せられました。今後は年2回（上半期・下半期）、訪問希望を聴取し、相談に応じていく予定です。ぜひ御活用ください。

県立図書館

<http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/>

電話 025-284-6001（代表）FAX 025-284-6832

※PDFファイルで御覧の方は、下線部（Webページアドレス）をクリックすると、直接該当Webページへジャンプしますので御活用ください。Webページでも御覧ください。バックナンバーも御覧になれます。「教育月報」で検索してください。

教育月報



発行所 新潟県教育庁総務課

所在地 〒950-8570

新潟市中央区新光町4番地1

電話 025-280-5587 F A X 025-285-3766

E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp

Web版URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoikusomu/>

本紙に関する御意見がありましたら、お寄せください
<無断転載を禁ず>



インフォメーション

●県立万代島美術館

「梅佳代展 UMEKAYO」

◆約600点という膨大な作品群から、写真家梅佳代の魅力を多角的に紹介します。

○会期 3月15日(土)～5月6日(火) ※予定
○休館日 3月24日(月)、4月7日(月)、
4月21日(月)

○開館時間 10:00～18:00
(観覧券の販売は17:30まで)

○観覧料 一般 800円(600円)
大学・高校生 600円(400円)
中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金。

※学校団体で御利用の場合、観覧料の免除が受けられます。申請方法等、詳しくは当館HPを御覧ください。

※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料です。



〈うめめ〉より
2004年 ©UME KAYO

県立万代島美術館
住所 新潟市中央区万代島5-1 万代島ビル5階
TEL 025-290-6655
HP <http://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

●県立文書館

文書館歴史講座「ふるさと発見、ムラの神様で掘り起こす地域の歴史」

◆ムラにある神様は、いつ、どのように祀られたのでしょうか。県立文書館所蔵の資料を用いて、神様とムラの歴史を読み解いていきます。

○日時 3月8日(土) 13:30～15:00

○会場 新潟県立文書館 ホール

○定員 180名

○参加費 無料

○申込み 電話・FAX・Eメールのいずれかで県立文書館までお申込みください。

※定員に達した場合、申込みを打ち切らせていただくこともあります。

県立文書館
住所 新潟市中央区女池3-1-2
TEL 025-284-6011 FAX 025-284-8737
E-mail archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp
HP <http://www.archives.pref.niigata.jp/>

●県立近代美術館

企画展「生誕120年 岩田正巳展 —新興大和絵、その清澄なる世界—」

◆三条出身の日本画家・岩田正巳(1983～1988)の実像に迫る本格的な回顧展。正巳の代表作をとおして70年に及ぶ画業を回顧し、併せて松岡映丘、山口蓬春ら関連作家の作品を紹介します。

○会期 3月1日(土)～4月13日(日) ※予定
月曜休館

○開館時間 9:00～17:00
(観覧券の販売は16:30まで)

○会場 県立近代美術館 企画展示室
○観覧料 一般 1,000円(800円)
大学・高校生 800円(600円)
中学生以下無料

※()内は前売・有料20名以上の団体料金。

※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料です。



岩田正巳
《浜名を渡る源九郎義経》
1936年

常設展「コレクション展 第5期」

○会期 前期 3月9日(日)まで
後期 3月11日(火)～4月13日(日)
※予定
月曜休館

○開館時間 9:00～17:00
(観覧券の販売は16:30まで)

○会場 県立近代美術館
コレクション展示室1・2・3

○内容 展示室1「朝に夕に」
当館所蔵品から、朝と夕方を描いた作品を選び紹介します。

展示室2「近代美術館の名品」
当館所蔵品から、美術史上重要な作品等をセレクトし展示します。

展示室3(前期)「齋藤三郎生誕100年」
生誕100年を記念し、新潟県出身の陶芸家・齋藤三郎の作品を紹介します。

展示室3(後期)「セザンヌの水浴」
セザンヌの《水浴》図を読み解き、関連作品とともに展示します。

映画鑑賞会

○会場 県立近代美術館 講堂
「シャレード」 2月8日(土) 14:00～
「ローマの休日」 2月22日(土) 14:00～

※鑑賞無料、申込不要

県立近代美術館
住所 長岡市千秋3丁目278-14 TEL 0258-28-4111
HP <http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/>